

1. 2021年12月期 第116期 業績概要

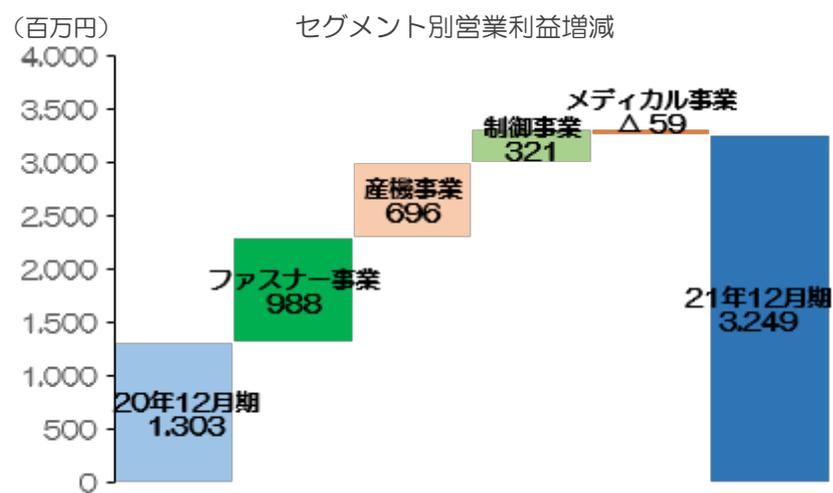
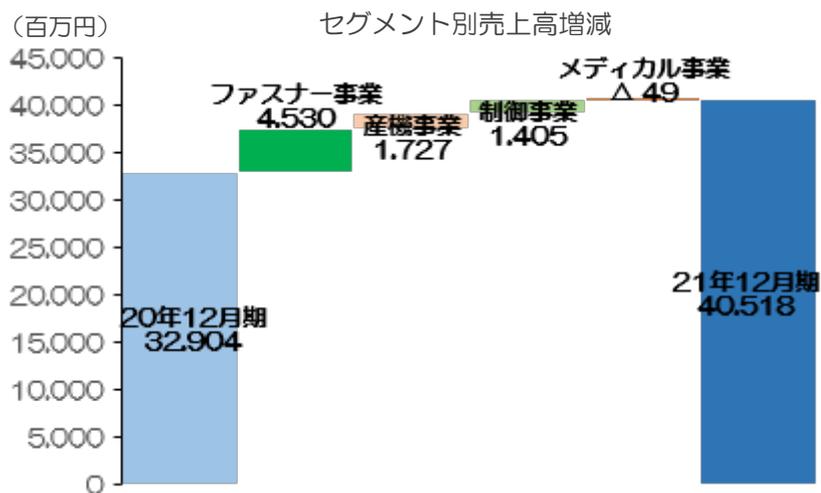
2022年2月14日
日東精工株式会社
(証券コード 東証1部:5957)

単位：百万円／％	20年12月期		21年12月期		前年同期比		21年12月期 業績予想比（2021年11月10日）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	32,904	100.0	40,518	100.0	7,614	23.1	41,000	△481	△1.2
売上総利益	7,640	23.2	10,285	25.4	2,644	34.6			
販売管理費	6,337	19.3	7,035	17.4	698	11.0			
営業利益	1,303	4.0	3,249	8.0	1,945	149.3	3,200	49	1.6
経常利益	1,418	4.3	3,487	8.6	2,069	145.9	3,300	187	5.7
税金等調整前当期純利益	1,359	4.1	3,606	8.9	2,246	165.2			
親会社株主に帰属する当期純利益	764	2.3	2,200	5.4	1,435	187.7	2,000	200	10.0
一株当たり当期純利益（円）	20.78		59.63				54.15		

- 自動車、電機・電子部品をはじめ大半の業種で伸長。過去最高売上高400億円を突破し前年同期比23.1%増収。
- デジタル技術活用、生産性・コスト効率性の向上に注力。前年同期比約2.5倍の営業増益。
- 世界経済の回復を受けて、昨年5月にねじの一貫生産体制を整えたインドネシアをはじめ、台湾・中国など各現地法人の売上が好調に推移。
- 巣ごもり製品のゲーム機関連、電動工具や3密対策商品の自転車などの需要増加に伴い、ねじ部品が好調。
- CASE関連、EV車関連の新設ラインや大型設備の需要増により、ねじ締め機など産機事業は回復基調。
- 連結子会社日東精工アナリティックは、分析機器などが好調に推移。売上増に寄与。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／%		20年12月期	21年12月期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	23,366	27,896	4,530	19.4
	営業利益	557	1,545	988	177.1
	利益率	2.4	5.5		
産機事業	売上高	5,454	7,182	1,727	31.7
	営業利益	911	1,608	696	76.4
	利益率	16.7	22.4		
制御事業	売上高	4,010	5,416	1,405	35.0
	営業利益	△164	156	321	—
	利益率	△4.1	2.9		
メディカル事業	売上高	73	23	△49	△67.5
	営業利益	△1	△61	△59	—
	利益率	△2.1	△256.3		



単位：百万円/%	20年 12月期	21年 12月期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	23,366	27,896	4,530	19.4
自動車	8,759	10,287	1,529	17.4
電機・電子部品	3,816	4,971	1,155	30.3
住宅・建築	4,116	4,752	635	15.5
雑貨	2,101	2,825	723	34.5
IT・情報機器	1,090	1,232	142	13.0
精密機器	1,159	1,080	△78	△6.8
医療	279	349	70	25.1
エネルギー関連	202	131	△70	△35.1
その他	1,844	2,269	424	23.0
営業利益	557	1,545	988	177.1

・半導体不足による生産調整の背景があるものの、コロナ禍におけるゲーム機や、パソコンなど巣ごもり需要拡大による精密ねじの売上増や、電子制御の進化に伴う車載用ECU向け一般ねじの売上が好調に推移。

◆自動車

・EV化・電池関連を中心に、ギザタイト、アルミタイトなどの緩み止め機能ねじや、ECU基盤向け座金組み込みねじが好調。

◆電機・電子部品

・巣ごもりの定着化に伴う家電需要の高まりを受け、家電向けねじ製品が大幅増。

◆住宅・建築

・堅調な住宅需要を背景に住宅設備関連向けねじ製品が貢献。

◆雑貨

・巣ごもり特需。ゲーム機、電動工具向けなど精密ねじが貢献し、大幅増。

◆IT・情報機器

・半導体不足もリモート化の波を受け好調なパソコン、スマホ向けねじ製品が 堅調に推移。

単位：百万円／％	20年 12月期	21年 12月期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,454	7,182	1,727	31.7
自動車	3,722	4,293	571	15.3
電機・電子部品	612	924	311	51.0
エネルギー関連	147	634	486	331.3
住宅・建築	180	314	134	74.4
IT・情報機器	78	139	61	78.2
雑貨	13	61	47	369.2
遊技機	85	54	△31	△36.5
医療	52	6	△46	△88.5
その他	565	757	191	34.0
営業利益	911	1,608	696	76.4

- ・好調継続のCASE関連やIT関連特需、特定ユーザ向け大型設備などの需要により回復基調。前年同期比31.7%増。
- ・海外は、新車種対応、新エネルギー車向け、IT関連の生産設備の受注拡大により売上増に寄与。

◆自動車

- ・CASE関連、EV車関連の新設ラインや大型設備の投資が堅調に推移。
- ・米国、中国、韓国、タイは、設備投資が活発な新車種、新エネルギー車向けなどの需要増加により大きく貢献。

◆電機・電子部品

- ・巣ごもりの定着化により家電関連などの生産設備も需要拡大し大幅増。

◆エネルギー関連

- ・ガスメータ関連の生産・検査などの設備需要を受け大幅増。

◆住宅・建築

- ・給湯機器関連などの設備需要が増加し、引き続き大幅増。

◆IT・情報機器

- ・半導体不足によりHDD関連、通信基地局関連などは低調だったものの、スマートフォン関連の需要が増加。

単位：百万円/%	20年 12月期	21年 12月期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	4,010	5,416	1,405	35.0
化学・薬品	1,240	1,326	85	6.9
エネルギー関連	505	1,164	657	130.5
住宅・建築	333	553	220	66.1
造船	209	407	198	94.7
自動車	168	365	196	117.3
電機・電子部品	1	204	202	—
食品	116	113	△2	△2.6
その他	1,438	1,284	△152	△10.7
営業利益	△164	156	321	—

- 分析装置が化学・薬品、エネルギー分野で売上増に大きく貢献。
- 部品検査装置など省人化を進める自動車業界での需要増を受け好調に推移。
- 流量計は、医薬品関連や造船関連を中心に堅調に推移。
- 新製品地盤調査機の買替需要が好調に推移したことで回復基調。

◆化学・薬品

- 元素計、水分計など、分析装置の需要が堅調。

◆エネルギー関連

- 設備更新や新製品「NSX5000Vシリーズ」の発売、輸出向けの需要拡大など、分析器等の需要が拡大。売上増に大きく貢献。

◆住宅・建築

- 新製品「ジオカルテⅣ」への買い替え需要により回復基調。

◆造船

- 船舶排ガス規制強化を受けて流量計の更新が活発となり大幅増。

◆自動車

- 半導体不足に伴う自動車減産など設備投資に慎重となる背景はあるものの、省人化をキーワードとする部品検査装置「ミストル」などの需要により大幅増。

単位：百万円/%	20年 12月期	21年 12月期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	73	23	△49	△67.5
医療	73	23	△49	△67.5
その他	—	—	—	—
営業利益	△1	△61	△59	—

◆医療

- 「フリーレッド」は、医療機器販売会社を通じた販路拡大、臨床試用の拡大、原価低減に努めるも、長期化するコロナ禍により医療機関の経営状態の改善や、医療機関への訪問自粛の緩和はなく厳しい。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、上市に向けた医療機関を含むコンソーシアムの編成や、製造体制の構築など、早期の製品化に向けた取り組みを推進。

2021年12月期 第116期(連結)貸借対照表

単位：百万円／％	20年12月期		21年12月期		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	27,704	59.9	32,646	64.1	4,941	17.8
現金及び預金	9,287	20.1	11,415	22.4	2,128	22.9
受取手形・売掛金・電子記録債権	10,543	22.8	12,084	23.7	1,541	14.6
棚卸資産	6,916	15.0	7,926	15.6	1,009	14.6
固定資産合計	18,517	40.1	18,277	35.9	△239	△1.3
有形固定資産	12,933	28.0	13,092	25.7	158	1.2
無形固定資産	1,421	3.1	1,281	2.5	△140	△9.9
投資その他の資産	4,162	9.0	3,904	7.7	△258	△6.2
資産合計	46,222	100.0	50,924	100.0	4,701	10.2
負債の部						
流動負債合計	11,618	25.1	13,675	26.9	2,056	17.7
支払手形・買掛金・電子記録債務	6,674	14.4	8,069	15.8	1,395	20.9
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,847	6.2	2,610	5.1	△236	△8.3
固定負債合計	4,745	10.3	4,546	8.9	△199	△4.2
負債合計	16,364	35.4	18,221	35.8	1,857	11.4
純資産の部						
資本金	3,522	7.6	3,522	6.9	—	—
資本・利益剰余金	25,202	54.5	26,993	53.0	1,791	7.1
自己株式	△1,279	△2.8	△1,254	△2.5	25	0.0
純資産合計	29,858	64.6	32,702	64.2	2,844	9.5

単位:百万円	20年12月期	21年12月期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	3,368	3,650	281	8.4
投資活動によるCF ※②	△3,164	△993	2,171	—
（フリーCF） ※①+②	204	2,657	2,452	—
財務活動によるCF	△871	△704	166	—
現金及び現金同等物の増減額	△712	2,136	2,848	—
現金及び現金同等物の期首残高	9,012	8,299	△712	△7.9
現金及び現金同等物の期末残高	8,299	10,435	2,136	25.7

2. 2022年12月期 第117期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円/%	21年12月期		22年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	40,518	100.0	42,500	100.0	1,981	4.9
営業利益	3,249	8.0	3,400	8.0	150	4.6
経常利益	3,487	8.6	3,500	8.2	12	0.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,200	5.4	2,200	5.2	0	0.0
一株当たり当期純利益（円）	59.63		59.57			

- 上半期については半導体不足による生産の遅延などの影響は残るものの、自動車関連ではコロナ禍による生産低迷を挽回するために増産傾向にあるため、好調に推移すると予想。特に次世代自動車に搭載されるEV関連やECU関連などは引き続き好調維持を見込む。
- カーボンニュートラルの実現に向けて、資源の効率化・軽量化を図るねじ製品の需要は好調と予想。
- ねじ締め機関連では、半導体不足により延期・中止されていた設備投資計画の再開なども見込み、好調と予想。
- 計測機器は、環境問題による材料開発や既存材料の変更などに伴う需要が堅調に推移すると見込む。
- 再生可能エネルギー関連の需要拡大に期待。設備建設用特殊船舶の建造増加による流量計需要の増加を予想。
- メディカル事業は、販社との連携強化を務めるとともに、マグネシウム関連開発品の臨床試用を目指す。

セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円/%		21年12月期	22年12月期 (予想)	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	27,896	29,490	1,593	5.7
	営業利益	1,545	1,790	244	15.8
	利益率	5.5	6.1		
産機事業	売上高	7,182	7,290	107	1.5
	営業利益	1,608	1,480	△128	△8.0
	利益率	22.4	20.3		
制御事業	売上高	5,416	5,570	153	2.8
	営業利益	156	240	83	53.1
	利益率	2.9	4.3		
メディカル事業	売上高	23	150	126	529.5
	営業利益	△61	△110	△48	—
	利益率	△256.3	△73.3		

